

報道ご関係者各位

«同時資料提供»
大阪府政記者会
大阪市政記者クラブ
大阪経済記者クラブ

大阪府 府民文化部 文化・スポーツ室 文化課
大阪市 経済戦略局 文化部 文化課
公益財団法人 関西・大阪21世紀協会

令和3年度大阪文化祭賞受賞者の決定および贈呈式開催のご案内

大阪府、大阪市及び公益財団法人関西・大阪21世紀協会では、芸術文化活動の奨励と普及を図り、大阪の文化振興の機運を醸成することを目的に、大阪府内で上演された公演の中から優れた成果をあげたものに対して「大阪文化祭賞」を贈呈しており、今年で58回目の開催となります。

このたび、令和3年に大阪府内で開催された公演を対象に、独創性に富み、企画・内容・技法が総合的に優れていること等について審査をいたしました結果、各賞を決定いたしました。

つきましては、「令和3年度大阪文化祭賞」各賞受賞者への贈呈式を下記のとおり開催し、受賞者による受賞記念公演も実施いたします。

報道関係の皆様方には何かとご多端のおり恐縮ですが、当賞の趣旨に鑑み、広く告知・ご取材等のご協力を賜りたく、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

1. 令和3年度大阪文化祭賞 贈呈式 開催概要

- (1) 日時 令和4年 3月 29日 (火) 14:00 より
(13:30 受付開始、13:50 開場)
- (2) 会場 NCB会館 2階 淀の間
大阪市北区中之島6丁目2-27 TEL/06-6448-6036
14:00 ・開式・あいさつ
14:15 ・賞の贈呈
14:55 ・受賞者記念公演
堺シティオペラ様
15:05 ・記念写真撮影
15:15 ・閉式

2. 令和3年度大阪文化祭賞 受賞者

大阪文化祭賞

・上村吉弥

「関西・歌舞伎を愛する会 第29回七月大歌舞伎『双蝶々曲輪日記 引窓』」の成果

・曾我廼家文童、井上恵美子

「松竹新喜劇錦秋公演『お家はんと直どん』」の成果

・堺シティオペラ、大阪交響楽団

「il Teatro L'alba L'amore “オペラ×オーケストラ”歌劇『トゥーランドット』」の成果

大阪文化祭奨励賞

・豊竹靖太夫

「錦秋文楽公演『ひらかな盛衰記【大津宿屋の段】』」の成果

・桂 福丸

「桂 福丸独演会フクマルまつり」の成果

・極東退屈道場

「LG20/21 クロニクル」の成果

・檜垣智也

「アコースモニウムリサイタル」の成果

・niconomiel (ニコノミエル)

「niconomiel vol.2『Synergy』」の成果

※副賞賞金として、大阪文化祭賞20万円、大阪文化祭奨励賞5万円がそれぞれ贈られます。
※各受賞者の受賞理由・略歴等は別添資料をご参照ください。

《各受賞者の受賞理由・略歴》

大阪文化祭賞 3件

上村吉弥

「関西・歌舞伎を愛する会 第29回七月大歌舞伎 『双蝶々曲輪日記 引窓』の成果

(かみむらきちや/「かんさいかぶきをあいするかいだいにじゅうきゅうかいしちがつおおかぶき『ふたつちょうちょうくるわにつき ひきまど』のせい)

(第1部門：伝統芸能・邦舞・邦楽)

『双蝶々曲輪日記』は市井に慎ましく生きる人々の情を丁寧に描いた義太夫作品であり、上村吉弥氏が演じたお幸は先代（五代目上村吉弥）が得意としていた役の一つである。当代は今回で三度目、七月大歌舞伎では初めてとのことだったが、「上方の芝居だ」と観客が安心する存在感を放っていた。義理の息子・南与兵衛の出世を、嫁のお早と誇らしく嬉しく語る後家としての心。実の息子・長五郎に生きて欲しいと願う母心。義と情の狭間で引き裂かれるような老母の思いがひしひしと伝わってくる細やかな演技であった。そしてそれにより、長五郎、お早、与兵衛の芝居が格段に際立ち、より一層鮮やかな幕切れとなっていた。吉弥氏は一昨年には弟子達と一門会を立ち上げ成功させるなど、一般家庭から歌舞伎の世界に入った後進に歩み方を常に示してきた。上方歌舞伎界にとって氏の存在は今後さらに重要であり、「上方が匂う」女方として益々の活躍を期待し、大阪文化祭賞を贈呈する。



©松竹株式会社

【略歴】昭和30年4月27日生まれ。昭和48年8月片岡我當に入門、同年10月大阪新歌舞伎座にて「新吾十番勝負」の寛永寺の僧他で片岡千次郎を名乗り初舞台。昭和62年11月歌舞伎座にて名題披露。平成5年11月南座顔見世にて「根元草摺引」の舞鶴他で六代目上村吉弥を襲名。確かな芸の力と美貌で上方歌舞伎を中心に貴重な女方として充実した舞台を勤めている。昭和61年十三夜会賞奨励賞、咲くやこの花賞、昭和62年大阪府民劇場賞奨励賞、平成18年和歌山県文化奨励賞、平成28年第35回京都府文化賞功労賞、令和元年大阪市民表彰ほかを受賞。

曾我廼家文童、井上恵美子

「松竹新喜劇錦秋公演『お家はんと直どん』」の成果

(そがのやぶんどう、いのうえみこ/「しょうちくしんきげき きんしゅうこうえん『おいえはんとおどん』」のせいか)

(第2部門：現代演劇・大衆芸能)

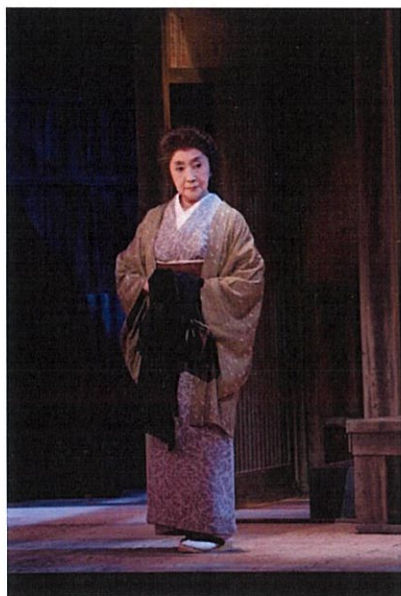
上方人情喜劇の伝統を受け継ぎ、70年以上の歴史を持つ松竹新喜劇が、令和3年の錦秋公演で、43年ぶりとなる「お家はんと直どん」を上演した。

大阪・船場の老舗糸屋の次男と、料亭の仲居の縁談がまとまりそうになるが、実は親同士のお家はんと直どんがかつて恋仲で、駆け落ちの約束が守られずに別れた過去があった。その因縁もあり、話は二転三転していく。

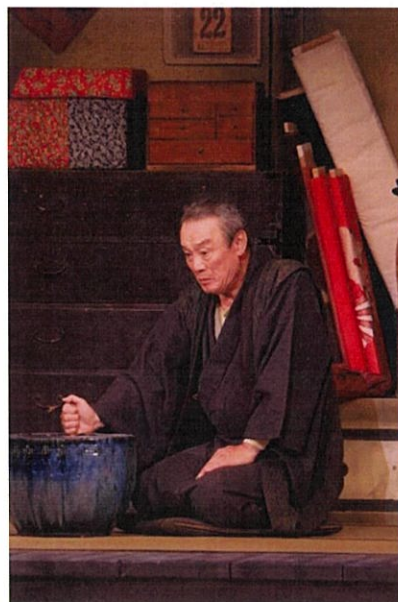
お家はん役の井上恵美子は、老舗を支えてきた品と威厳だけでなく、子供たちの幸せを願う母親の愛情、そして一人の女性として直どんに抱く愛憎を見事に演じきった。

直どん役の曾我廼家文童も、破談された娘を思う悲しみや愛情、お家はんへの思いを自然体で笑いを交えながら、表現や声色、指先や肩を駆使して巧みに表現した。

二人は長年積み重ねたからこそ出せる芸で、観客の涙と笑いを誘ったばかりでなく、劇団員らにすばらしい手本を示した。その功績を称えて、大阪文化祭賞を贈りたい。



©松竹



©松竹

【曾我廼家文童 略歴】

昭和37年上方喜劇の名優・曾我廼家十吾に弟子入り、喜劇を一から修業した後、昭和48年松竹新喜劇入団。藤山寛美との舞台上で数多くの役を経験し芸の研鑽を積んだ。上方喜劇を体現する芝居巧者で二枚目の若旦那からおっちょこちょいで三枚目の番頭など演じる役柄は幅広く、情感の濃い洒脱な演技で観客を魅了。寛美亡き後新生松竹新喜劇の旗揚げに参加、後にフリーとなったが舞台では松竹新喜劇以外にも「ハムレット」などの名作に出演する他、小林幸子、舟木一夫などの公演にも度々請われて参加。NHK連続テレビ小説「よーいドン」で主人公の相手役を演じた他「べっぴんさん」「白い巨塔」など数多くの作品に出演。

【井上恵美子 略歴】

劇団新派で活躍していた父に影響を受け、昭和44年劇団新派に入団。初代水谷八重子の下で芝居修業に励んだ。昭和60年上演の藤山寛美舞台生活50周年記念松竹新喜劇公演へのゲスト出演をきっかけに、翌年松竹新喜劇に入団。華やかな容姿に加え、地唄舞や長唄、義太夫といった古典芸能の素養が舞台に生きて、はんなりとした上方の風情と粋な江戸の風情

の両方を演じ分けることができ、「大阪の家族はつらいよ」（山田洋次脚本・演出）で演じた主人公の妻富子のようなコミカルな演技もこなす貴重な女優である。令和2年第55回大阪市民表彰受賞。

堺シティオペラ、大阪交響楽団

「Il Teatro L'alba L'amore “オペラ×オーケストラ” 歌劇『トゥーランドット』の成果

(さかいしていおべら おおさかこうきょうがくだん／「いるてあとろ らるばらもーれ “オペラおーけすとら”
かげき『とーらんどっと』のせいかけ)

(第3部門：洋舞・洋楽)

堺シティオペラと大阪交響楽団が協同して制作した本公演は、何よりも舞台作品としての完成度が高かった点で評価できる。つまり、セミ・ステージ形式ゆえの制約があるなか、人物の所作や衣装、照明などに細かな工夫が施されることで劇に躍動感と推進力が与えられていた。さらに賞賛すべきは、出演者が軒並み優れていた点である。題名役の並河寿美、ティムール役の片桐直樹などのベテラン勢が、安定した歌唱で終始存在感を見せる一方、カラフを歌った笛田博昭、リユーを演じた高橋絵理などの若手は、艶やかな美声と迫真の演技でそれぞれの役の魅力存分に引き出していた。また、ピン、パン、ポンの軽妙洒脱なアンサンブル、合唱団の迫力あるサウンドも良かった。もちろん、これらの好演を導いた柴田真郁率いる大阪交響楽団の功績は見逃せない。まさに、二つの団体が補完しあって作り上げた芸術性の高い舞台であり、記憶されるべき内容であったと言える。



【堺シティオペラ 略歴】

昭和53年市民オペラとして産声を上げ、平成22年より堺シティオペラ一般社団法人として毎年オペラ定期公演を開催。創設当時から海外の歌劇場やオペラ団体との交流を盛んに行う。令和元年2度目のウィーン公演では現地大使館の後援を得て、数日に亘る日本・オーストリア国交150年記念公演を全うし、メディアからも高い評価を得た。同年堺市新設のフェニーチェ堺に於いて出演者・スタッフ総勢350人以上でオペラ「アイダ」を公演し、大阪文化祭賞を受賞した。佐川吉男音楽賞（平成15年、平成26年）、音楽クリティッククラブ

賞（平成 15 年、平成 26 年）、大阪文化祭奨励賞（平成 27 年）、大阪文化祭賞（平成 7 年、令和 3 年）ほか受賞。

【大阪交響楽団 略歴】

昭和 55 年「大阪シンフォニカー」として創立。創設者である、永久名誉楽団代表・敷島博子が『聴くものも、演奏するものも満足できる音楽を！』を提唱。いつも聴衆を“熱く”感動させるその演奏は、「魂の叫び」「情熱の音」と評されている。

平成 13 年 1 月に楽団名を「大阪シンフォニカー交響楽団」に、平成 22 年 4 月「大阪交響楽団」に改称。令和 4 年 4 月、新指揮者体制として、山下一史（常任指揮者）、柴田真郁（ミュージックパートナー）、高橋直史（首席客演指揮者）の 3 名の就任を予定しており、さらなる楽団の飛躍が期待されている。平成 21 年度第 64 回文化庁芸術祭「芸術祭大賞」、大阪文化祭賞（平成 3 年、平成 5 年、平成 11 年、平成 12 年、平成 25 年）ほか受賞。

大阪文化祭奨励賞 5 件

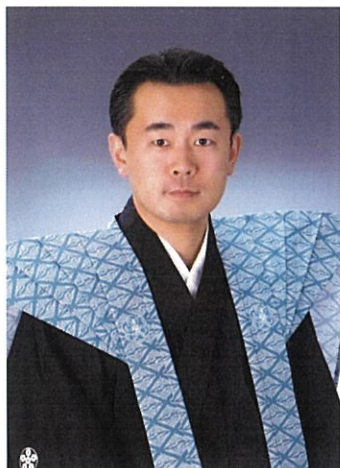
豊竹靖太夫

「錦秋文楽公演『ひらかな盛衰記』【大津宿屋の段】」の成果

(とよたけやすたゆう/「きんしゅうぶんらくこうえん ひらがなせいすいき おおつやどやの段」のせいか)

(第 1 部門：伝統芸能・邦舞・邦楽)

娘と孫を連れて巡礼をする老いた船頭、追手から逃れている山吹御前と若君、付き添う鎌田隼人と腰元お筆の父・娘、さらに宿屋の亭主や敵方の番場忠太も出てくる段。善悪貴賤、老若男女、多彩な登場人物を的確に語り分け、後に起こる悲劇にしっかりとつなげた。若手の域を越えた堂々とした舞台であった。



【略歴】

昭和 54 年 3 月 8 日生まれ。平成 14 年国立劇場文楽第 20 期研修生。平成 16 年豊竹嶋太夫に入門、豊竹靖太夫と名のる。同年 7 月国立文楽劇場で初舞台。令和 3 年 4 月竹本千歳太夫の門下となる。

平成 24 年度第 32 回国立文楽劇場文楽賞文楽奨励賞を皮切りに、これまでに文楽奨励賞を 3 度（平成 27 年度、平成 30 年度）、文楽協会賞を 3 度（平成 25 年度、平成 28 年度、令和元年度）受賞。第 40 回（令和 2 年度）国立劇場文楽賞文楽奨励賞。

桂 福丸

「桂 福丸独演会 フクマルまつり」の成果

(かつらふくまる/「かつらふくまるどくえんかい ふくまるまつり」のせいか)

(第 2 部門：現代演劇・大衆芸能)

芸歴 15 年の桂福丸が独演会「フクマルまつり」で古典の「阿弥陀池」、「稽古屋」に加え、江戸時代に実在した女性を描いた「女侠客・奴の小万」を味わい深く演じた。多彩な演者が登場し、「まつり」の楽しさに満ちた会だった。小学生だけが参加できる落語会などを企画し上方演芸の発信に尽力している功績も合わせて評価したい。



©佐藤 浩

【略歴】

1978年神戸市生まれ。灘中学灘高校卒業後、京都大学法学部に進学。卒業後は英語落語を学びアメリカでも公演を行う。2007年4代目桂福団治に入門。同年3月高石アプラホールにて初舞台。天満天神繁昌亭ほか、各地の落語会に出演中。寄席では古典落語を中心に演じているほか、「京大宇宙落語会」では、宇宙をテーマにした新作落語を発表している。2021年より小学生向けの落語会「子どもだけ寄席」を開始。平成29年度文化庁芸術祭賞大衆芸能部門新人賞、平成29年第23回新進落語家競演会新人奨励賞、平成29年度花形演芸大賞銀賞受賞。

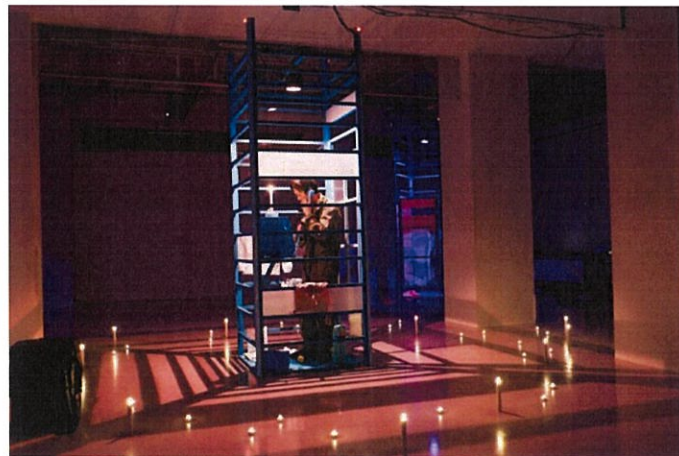
極東退屈道場

「LG20/21 クロニクル」の成果

(きょくとうたいくつどうじょう/「えるじーにーぜろ／にーいちくろにくる」のせいか)

(第2部門：現代演劇・大衆芸能)

ビルの1階と4階に架空の電話ボックスを5基ずつ設置。俳優たちは両階を行き来しつつ受話器に向かった。話す相手は、高層マンションに現れた誘拐犯だったり、もう行方のわからない人だったり。言葉と動き、美術が融合した舞台は、都市生活者の孤独や漠然とした不安をも浮かび上がらせた。スタイリッシュな表現の、今後の展開が期待される。



©面高真琴

【略歴】

平成19年、劇作家・演出家の林慎一郎の主宰する演劇プロデュースユニットとして発足。都市のありさまに着目し、都市生活の取材に基づいた断片の集積を集めた演劇作品を作り続けている。平成23年『サブウェイ』で第18回OMS戯曲賞大賞を、平成25年『タイムズ』で同特別賞を受賞。

檜垣智也

「アコースモニウムリサイタル」の成果

(ひがきともなり/「あくーすもにうむりさいたる」のせい)

(第3部門：洋舞・洋楽)

日本における第一人者として、電子音楽の「アコースマティック」の普及に努めてきた檜垣智也の現時点での集大成。檜垣の新作に加え、ドニ・デュフルの《知られざる大地》、フランソワ・ベールの《影の劇場》という3作品の演奏では、入念な事前準備と檜垣によるライブでのバランス・コントロールのもと、創造者と演奏者の直接的な対話が生き生きと繰り広げられていた。



©松浦隆

【略歴】

作曲家・アコースモニウム奏者。愛知県立芸術大学大学院修了。博士（芸術工学、九州大学）。ハーバード大学、フランス国立視聴覚研究所音楽研究グループ等で招待公演。平成15年第五回国際リュック・フェラーリ・コンクール最高賞等。東海大学准教授、大阪芸術大学客員教授。

niconomiel

「niconomiel vol.2『Synergy』」の成果

(にこのみえる/「にこのみえる ぼりゅーむつー『しなじー』」のせい)

(第3部門：洋舞・洋楽)

上杉真由が立ち上げたダンスカンパニーniconomielの2回目の公演。上杉、宮原由紀夫、オーストラリアの益川結子と3人の若手振付家が意欲的な新作を発表した。古典バレエの下地を基に、それに囚われない新しい表現を模索。特に、「伝える」、「他者と関わる」ための手段は言葉だけではないというダンスの本質にも関わることに、それぞれのアプローチで挑んでいることが興味深かった。今後の活動に期待が膨らむ。



©樋口尚徳

【略歴】

"xeno"異端"nihil"無い"mico"輝き

この3つを語呂合わせした造語でニコノミエルと読む。

「異端児が無限の輝きをつくる」をモットーに、平成 30 年大阪・森ノ宮で上杉真由により niconomiエルが発足。

バレエの基礎訓練を積んだダンサーが様々なアーティストと融合しながら独自の舞踊芸術を創造する。

踊ることは生きる喜び、もっと身近に踊りがある世界を目指して…

…大阪文化祭賞とは…

大阪文化祭賞の創設は昭和38年にまで遡り、これまで多くの芸術家、実演家が受賞しています。関西の著名な芸術家・文化人・ジャーナリストが、第1部門「伝統芸能・邦舞・邦楽」、第2部門「現代演劇・大衆芸能」、第3部門「洋舞・洋楽」の3部門について、公演を審査し、大阪文化祭賞、大阪文化祭奨励賞を選考します。

※写真はデジタルデータもございます。ご入用の際は E-mail でお送りいたしますので、下記事務局まで電話または E-mail にてご連絡ください。

■この件に関するお問い合わせ先■

【大阪文化祭賞事務局】

公益財団法人関西・大阪 21 世紀協会 文化事業部 梶浦

e-mail / kajiuraa@osaka21.or.jp

TEL/06-7507-2002 FAX/06-7507-5945